

平成30年度 八丈町立三原小学校 学校経営方針

1 三原小学校について

三原小学校は、平成19年度に檜立小学校と中之郷小学校が統合して開校しました。その後平成25年度に末吉小学校も統合し、3地区の児童が通う学校です。

3地区にはそれぞれに文化と伝統の継承があり、価値観が異なる部分がありますが、児童の成長を願って保護者が協力し、現在に至っています。それだからこそ、地域に根ざした学校を構築していくことが大切で、保護者、地域、学校が協働して伝統を作っていく段階です。

目指す学校像

三原小学校教育目標
心ゆたかで、思いやりのある子供
ねばり強く学習する子供
すすんで体をきたえる子供

三原中学校教育目標
やさしい人
たくましい人
よく学ぶ人

小中一貫教育

もっと 学びたい

友達といると楽しい

明日も学校へ行きたい

保育園・中学校・高等学校と協働し、保護者とともに子供主体で考え、実践する学校

家庭や地域から信頼され、児童の将来を保証する学校

教職員の基本姿勢

すべての教育活動は、子供の資質と能力を高めるため：基礎学力と下記の能力の育成

自律性

コミュニケーション能力

探究心

情報活用力

創造力

共生的な態度

小規模校の利点を生かし、個に応じたキャリアプランを児童・保護者とともに考える
：児童アンケートの実施と考察と活用

学力向上について 1

- できない状態からできる状態へのやり方を身に付けさせるために、プロセスを味わわせ、新しい課題に対しても応用ができるように指導する

学習規律

学習方法の獲得

ねばり強さ

話 型

興味関心・意欲

適切な課題

学ぶことが好きな子供の育成: 高学年に向けて主体的に学習する習慣を育成する

自らのキャリアプランに基づき、目標を設定し教師に支援してもらいながら学習を進める

学力向上について 2

体幹を鍛える
正しい姿勢

自己評価力の育成

キャリアプランに沿った主体的な学習

活用資料:ベーシックドリル・進級ドリル

個人カードを作成し、**数値化と見える化と共有化**

単元の評価目標80%を目指し、PDCAの手法を用いて、授業改善及び家庭学習改善などを行う

* 低学年については90%を達成目標とする

* 小テストなどは、100%できるまで繰り返し指導を行い確実に定着させる

生活指導について

生活習慣の確立: 自分のことは自分でできる。個人としての礼儀と作法を徹底する

あいさつ

整理整頓

返事

衛生

食事

健康

世の中に出て、恥をかかない人間に育てる: 自尊感情

社会性の育成: 集団の中でめあてをもった言動がとれるような人間に育てる。* 三原っ子宣言

会話

遊び

自らの役割

思いやり

自他の尊重

集団の中で役に立っているという思いを育てる: 自己有用感

特別活動

参加して、楽しい、成功してうれしいと感じられる特別活動を進める
: 自己有用感の育成、社会性の育成、生きる力の育成

教師の事前の準備

育てる力の明確化

子供に任せる内容の明確化

実践

計画性のある、話し合い活動: 三原学園で統一した話し合い活動の型を指導する

低学年: 教師の指示に従って

中学年: 教師と相談しながら

高学年: 教師に相談しながら

6年間で自治
能力を育てる

中学校: 自主的な生徒会活動

伝統文化を学ぶ

- ・八丈島の伝統と文化:まず、教師が島を知り、教材化を図る
- ・周りが海、自然が多いという自然環境に基づいて文化が継承されてきた。情報機器、交通の発達により他の文化が流入し、伝統文化の必要性が薄れてきている。

1 残したい文化

- ・八丈方言 ・八丈太鼓 ・伝統的な料理 ・伝統的な遊び ・伝統的な社会風土

2 学校で行う内容

- ・方言に関する授業:各学年年3回
- ・方言給食:地域の方と一緒に給食を食べながら、方言に親しむ活動

昨年度は二つの学年で実施。2年生以上の各学年で行う

- ・八丈太鼓:三原小中学校の9年間で太鼓が打てるように一貫して指導する:一貫教育目標

*その他にも、稲作、劇団かぶつの観劇などを実施する

三原小中学校一貫教育

- ・平成30年度より、八丈町の施策として、小中一貫教育を実施する。
- ・本校は、三原学園三原小学校(通称名)とし、三原中学校と9年間を通じた教育を行う
- ・正式名称は、東京都八丈島八丈町立三原小学校である。

平成30年度研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現する新授業プランの開発

～施設隣接の利点を生かして～

総合的な学習の時間・道徳科・外国語に重点を当て、資質能力の伸長を図る

- ・その他の教科、領域についても、中学校と連携を図り、**無理、無駄のない効率的な指導**を推進する
- ・合同実施する行事
- ・合同避難訓練(一斉下校含む) ・三原大運動会 ・学習発表会(学芸会)
- ・道徳授業地区公開講座 ・オリンピック、パラリンピック教育

道徳科

道徳：自他がよりよく生きるための知恵・慣習

法令
最低限必要な共通の決まり

道徳的思考、判断、心情に加え、**道徳的行為を
行う意欲と態度を育てる**

道徳科の価値項目を学年に応じて系統的に指導する

A: 自分自身に関すること(善悪の判断、自律、自由と責任・正直、誠実・節度、節制
・個性の伸長・希望と勇気、努力と強い意志・真理の探究)

B: 人との関わりに関すること(親切、思いやり・感謝・礼儀・友情、信頼・相互理解、寛容)

C: 集団や社会との関わりに関すること(規則の尊重・公正、公平、社会主義・勤労、公共の精神
家族愛、家庭生活の充実・よりよい学校生活、集団生活の充実・伝統と文化の尊重、
国や郷土を愛する態度・国際理解、国際親善)

D: 生命や自然、崇高なものとの関わり(感動、畏敬の念・よりよく生きる喜び)

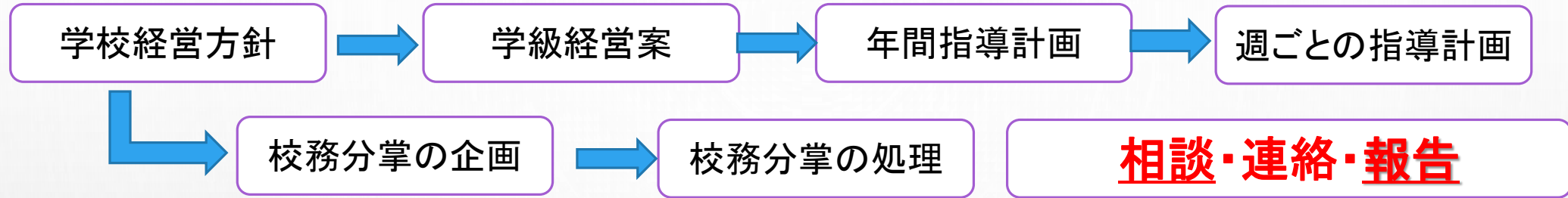
外国語(英語)

- ・外国語の獲得は目的ではなくスキルであり、外国人とのコミュニケーションを通して他国の文化に触れ、将来、国際社会の中でも生きる力を育てる。
- ・そのために、系統的で計画的な指導を9年間で行う。* 中学校との連携
- ・T1を担当または外国語教育推進リーダーが担当し、ALTを活用しながら、**話す・聞く・読む・書くの技能**を身に付けさせる。
- ・平成30年度より、3, 4学年は外国語活動、5, 6年生は外国語を指導するとともに、1, 2年生においても外国語に親しむ時間を設定し指導を行う。

特別支援教育

- ・三原学園には、特別支援の拠点がないため、特別支援コーディネーターを中心に個に応じた指導を行う。
- ・平成30年度より特別支援教室が開設され、拠点校の大賀郷小学校より通級担当教員が週2日来校し、指導を行う。
- ・特別支援教室専門員として、1名配置され、学習の準備、指導の記録、担任と大賀郷担当教員の調整、必要に応じて指導が行われる。
- ・全教職員で40名の児童を指導する意識をもって指導助言を行う。
- ・親身(親の立場を理解)になった対応と早めの対応が大切です。

学校運営・予算・給食



予 算

計画的・公正・的確な予算執行

給 食

安全管理・食育・健康指導・アレルギー対応